

I 自己評価

1 学校教育目標	自ら学び続ける意欲と態度を養い、知・徳・体の調和のとれた心豊かな人間を育成する。 1 主体性を重んじ個性を伸ばす総合学科の特色を生かし、自らの可能性を引き出す力を育てる。 2 自己を正しく理解し、自己実現を図るための、人生設計力を育てる。 3 実践的活動を通して、自主性・創造性を養い、健康な心身を育てる。 4 社会の一員としての役割と責任を自覚し、他を思いやる友愛の心を伸ばし、たくましく生きる力を育てる。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・主体性をもって課題解決に取り組み、自らの可能性を引き出す生徒 ・自己を正しく理解し、自己実現を図るための人生設計力を身に付けた生徒 ・実践活動を通し、自主性と創造性、健康な心身を兼ね備えた生徒 ・他人を思いやる友愛の心をもち社会で生きる力を持った生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・生徒一人一人の特性に応じた学力の伸長を図り、深い学びを実現するため、カリキュラム編成と、ICTなどを活用した創意工夫の授業展開 ・総合学科における専門教育とキャリア教育を通して「主体性・思考力・協働性」を養う授業の実施 ・「凜として美しく」をモットーに、学校生活の充実を図ると同時に、個々の進路実現に合わせた教育活動の実施	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・向上心を持ち、どのようなことに対しても主体的に学ぶ姿勢がある生徒 ・自ら様々な課題を発見・分析でき、適切な計画を立ててその課題に取り組める生徒 ・他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができる生徒 ・他者と協力しながら、社会に貢献しようとする思いがある生徒
3 評価する領域・分野	◇教務		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・昨年度の学校評価アンケート（生徒対象）結果より 学習面に関して、「授業の教え方や説明が分かりやすい先生が多い」について「よくあてはまる」と「ややあてはまる」が合わせて64%であった。 また、「本校では、ICTを活用した学習活動や協働的な学びの機会、オンライン等での学習支援などがあり、それが学習の理解につながっている」については、「よくあてはまる」と「ややあてはまる」が67%であった。この2つについて、一見十分なようであるが、さらなる改善が必要である。		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生涯にわたって自ら学び続けられる力を身に付ける。		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・教務部（企画広報、教務、学習指導、情報管理） ・教育課程委員会、系列担当者会、教科会、行事検討委員会、科目選択指導者会議		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 「充実した授業」「規律ある学校生活」を指導の基本におき、毎日の授業や部活動指導を通して、調和のとれた生徒の育成を図る。 (2) 相互参観授業、生徒による授業評価、研究授業・授業研究会の活用等で、授業改善及び教科指導力の向上を図る。 (3) 授業・部活動・生徒会活動等での言語活動を通して、コミュニケーション能力を育成する。	(1) 授業態度や資格取得・コンテスト、部活動の参加状況とその成果。 (2) 生徒による授業アンケートの結果。 (3) ICT機器の活用 【重点数値目標】 生徒による授業アンケートで、肯定的意見8割以上		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
・相互授業参観期間を設定し、指導力の向上。 ・生徒による授業反省と授業評価による、生徒の自己反省と授業の見直し。 ・年間を通して各教科1人以上の研究授業を通して授業力向上 ・ICTに関する教員研修を行い、教員技能の向上	①職員の参加状況 ②生徒の授業に対する意識と、授業評価内容 ③研修後の職員の技術力	(A) B C D A (B) C D A (B) C D	
12 成果課題	○相互授業参観を2回行った。1回目は参加率が非常に低かったが、2回目は、ほぼ全員が参加し、授業力向上に役立った。 ○「生徒による授業反省・授業評価」については、校内研修で身につけたFormsのアンケート機能と、manabaを使い各教員が実施することができた。 ○特に「電気基礎」「音楽Ⅱ」においては、ICTを積極的に活用した研究授業を行った。 ▲ICT教育推進に関する業務が、特定の教員に集中している。		総合評価 A (B) C D
13 来年度に向けての改善方策案			
・生徒用タブレット端末の管理等業務を分担し、ICT活用の推進をすると共に、ICT教育推進に関するミドルリーダー育成に努める。			

3	評価する領域・分野	◇進路指導	
4	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の適性や能力に合わせて具体的な進路指導を行っている。 ・保護者・生徒への情報提供や進路相談を適切に行っている。 	
5	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力及びキャリア開発力の向上 ・行きたい学校成長できる学校へ、生きがいを持てる職場へ 	
6	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導委員会 ・キャリア推進委員会 	
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
	<ul style="list-style-type: none"> (1) ICTを活用したキャリア教育の推進と教材開発 (2) キャリア教育の成果について非認知能力と学力推移について検証 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 就職内定率100%・3年以内離職率10%以内 (2) 進学者第一志望合格率85% 	
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
	<ul style="list-style-type: none"> ①オンラインによる自宅待機生徒もグループ討議に参加できるようにした他、NASを活用した進路情報の配信、manabaによるプレゼン視聴後の課題提出など。 ②Foamsを使った卒業生アンケートの実施。 ③非認知能力について、能力診断テストと評価システムの開発と学びの基礎診断と連動して検証。 	<ul style="list-style-type: none"> ①系列・年次会と連携して実施できたか。 ②信頼できるデータ数が収集できたか。 ③科学的な検証もと成果があったか。 	<ul style="list-style-type: none"> A <input checked="" type="radio"/> B C D <input checked="" type="radio"/> A B C D <input checked="" type="radio"/> A B C D
12	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○メタ認知力について、産業社会と人間及び探究の時間のメタ認知に関連した単元の評価と学びの基礎診断の成績推移などについての検証を継続して行った。両者については相関係数が0.6以上あり、メタ認知力の高い生徒ほど学習成績が向上することを可視化できた。 ○就職内定率100%。進学先第一志望合格率87%。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ▲今年度フォームズを使った卒業生の動向調査では、離職率について、高卒者では1年未満での離職率が5.1%、3年未満3.4%となっている。一方、進学後の就職者は離職率はそれぞれ7.6%、1.3%であった。就職後、転職等していない割合は高卒者で83.8%進学後就職者で86.1%となり、平均で、離職率は目標値を5.3%上回り、目標数値10%は達成できていないことが判明した。 	<p>総合評価</p> <ul style="list-style-type: none"> A <input checked="" type="radio"/> B C D 	
13	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <p>キャリア発達が見られない生徒が多くなってきており進路選択が主体的に行えない生徒が増えている。対面とオンラインでのキャリア教育について、検証と整理が必要である。また、中止してきたイベントについてもブラッシュアップして実施していきたい。</p>		

3 評価する領域・分野	◇生徒指導部	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「凛として美しく」をモットーに、頭髪・服装・マナー等の指導に重点を置いている。その様な指導は、生徒及び保護者からも良い評価を得ている。しかし、時代の変化に伴い、社会からの要請や価値観の変化から既存の校則について考える時期にきている。今後は、社会の変化に校則が柔軟に対応できる仕組みを構築する必要がある。 ・いじめは、見えないところで（ネット上含む）起きているケースが多いと思われる。思いやりを持ち、適度な距離感で付き合える力を育成したい。 	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 凛として美しい身なり・言動・姿勢で学校生活を送らせる。 (2) 自他の生命を大切にすると、規範意識の向上を育成する。 (3) 情報に関するモラルを正しく理解し、正しく利用させるように指導する。 	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての教員による生徒指導および教育相談を推進する。 ・早期発見・早期対応をするため、生徒指導部、担任、年次会、部顧問、保護者等との連携を図る。そして、職員間で情報共有をする。 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 年間を通して、身だしなみ、マナー等の向上を呼びかける。 (2) 交通安全集会、朝の交通指導等で安全意識の向上を図る。 (3) 情報モラル講話を前期・後期に実施し、意識を高める。 (4) 職員会議や朝会の場で生徒情報共有・共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生活委員による登校指導（挨拶・身だしなみ等）の状況。 (2) ～ (3) 交通事故件数と交通マナー違反件数および情報モラルに関する苦情。 (4) 多遅刻・多欠席状況等の気になる生徒および問題行動等の情報交換と共通理解。 	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・全校一斉点検を年間6回実施。（指導部内での共通理解） ・ヘルメット推進リーダーと生活委員が交通安全運動の実施 ・外部講師による情報モラルに関するLHRを実施。 ・生徒理解のための生徒指導職員研修会を実施した。 ・月2回のSCでは足りず、スペシャリストサポートを活用し、多くの生徒の心の悩みに寄り添った。 	<ul style="list-style-type: none"> ①点検の再検査で全員が合格できたか。普段の生活の中での指導。 ②交通事故件数の増減。交通マナー苦情件数。情報モラル違反の件数。 ③要援助生徒の情報交換をし、担任、年次会、部顧問、教育相談係、外部機関、保護者等との連携ができたか。 	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p>
12 成果課題	<ul style="list-style-type: none"> ○一斉点検を実施したことで、身だしなみ等で大きな乱れはなかった。 ○交通事故の件数は、昨年とほぼ同等数であったが、交通マナーの苦情はほとんどなかった。 ▲心に不安を抱える生徒が多く、月2回のSCでは全く対応できなかった。スペシャリストサポートで対応したが、来年度も多くなることが予想される。 ▲欠席・早退・遅刻が大幅に増えた。その背景には、コロナ禍において軽度の体調不良であっても自宅待機を余儀なくされる中、学校を欠席することに抵抗をもたない生徒が増えてきている。 	
13 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談を充実し、職員・家庭・関係各所と協力して生徒に寄り添い、自他の命を大切にすると心を育成していく。 ・SNSを適正に利用するための情報モラルを育むことで責任ある行動が取れるように学校と家庭で連携して指導していきたいと考えている。 ・安易に欠席する生徒に対しては、自分自身で体調を整え、家庭と連携して前向きに学校生活を送れるよう働きかけていきたい。 		

総合評価
A (B) C D

3	評価する領域・分野	◇特別活動	
4	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 一年を通じ各種委員会、行事等に積極的に参加し、充実した学校生活を送れている。 部活動が健全・円滑に運営され、活動している。 	
5	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>(1) 生徒会活動について 校内活動に生徒が進んで参加し、望ましい学校生活が営めるように努める。</p> <p>(2) ホームルーム活動について 正しい倫理観と奉仕する心を身につけ、豊かな情操と道徳性の育成に努める。</p> <p>(3) 部活動について 自主的・意欲的な活動によって学校生活を充実させるとともに、心身の調和のとれた発達と民主的な人間関係を醸成する。</p> <p>(4) 広報活動について 生徒の活動・活躍を保護者、地域の方々に理解、協力を得られるように努める。</p>	
6	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌、年次会、生徒会と常任委員会の連携 部活動委員会、部顧問会議における部活動指導 	
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
	(1) 年次会との連携による生徒の状況把握 (2) 1年次生の部活動における活動調査	(1) 生徒会活動、ボランティア活動への参加 (2) 部活動の定着率・継続率と大会などの成績	
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒主体による学校行事の企画・運営 部活動の主体的な取り組み ポスター、生徒会新聞などによる生徒会の広報活動 	<p>① 積極的に活動に参加できているか。</p> <p>② 目的をもって活動に参加し、成果を挙げることができたか。</p> <p>③ 生徒会が計画する行事について保護者・地域の方々が参加して頂けたか。</p>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>
12	成果・課題	総合評価	
	<p>○生徒一人一人が、学校行事、委員会活動、部活動等の活動において、主体的・積極的に取り組み、学校の活性化の源となった。</p> <p>○生徒一人一人の自主的活動をサポートする体制として、特別活動部が中心となり、全職員で取り組むことができた。生徒諸活動支援部が生徒の自主的活動の支えとなっている。</p> <p>○部活動では、コロナ禍の影響で活動制限があったが、各部で知恵を出し合い、短時間で効率よく活動を続け、多くの部活動で顕著な成果を挙げることができた。</p> <p>○コロナの影響により、学校行事の中止や縮小化、変更を余儀なくされた。その中でコロナ感染対策を万全に行い、できる範囲での行事を実施した。また、生徒会発案による新たな全校企画を、昨年度に続き実施できたことに成長を感じた。</p> <p>▲部活動の新入生の加入率、2年次、3年次の継続率が若干ではあるが、年々低下してきている。</p> <p>▲LHRを充実させ、さらなる帰属意識を持った取り組みが出来るよう、特別活動部が中心となって、LHRの在り方や内容について研究していきたい。</p>	<p>A B C D</p>	
13	来年度に向けての改善方策案		
	<p>それぞれの活動における学校への帰属意識の向上、奉仕する心の育成、活動のより明確な目的意識の設定と、社会の一員としてのモラルやマナーを守る姿勢を培う。部活動において、新入生の加入率、継続率が上がるように部活動の意義ややりがいを伝えていきたい。また、活動の見直しや部活動以外の生徒の自主的活動についても支援できる体制を強化し、一人一人がより活躍できるようにサポートしていきたい。生徒会活動・HR活動において、より積極的に参加できるように、生徒一人一人の個性を尊重しつつ、活動を通して協調性、規範意識を高める姿勢を培う。</p>		

3	評価する領域・分野	◇「保健管理」「安全管理」		
4	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・該当する項目について、概ね良く評価されていたが、新型コロナにおいては、意見・提案等が多く、改善・実施できることは、取り組むことができた。		
5	今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 運動を積極的に実践継続していく能力と態度の育成に努める。 (2) 清掃意識の高揚と積極的な清掃活動をとおして、快適な学校環境づくりに努める。 (3) 学校内外における事故等に対する危機管理態勢を確立する。		
6	重点目標を達成するための校内における組織体制	・職員：保健厚生部（健康体育係・環境推進係・学校防災係） 生徒：保健委員会・環境美化委員会		
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	(1) 集団行動の徹底、新体力テスト（授業内実施）、耐寒競歩大会（中止）を通じた運動の実践 (2) 自己の健康管理 (3) 清掃活動 (4) 安全保全	(1) 諸行事・オンライン集会等 県内高校での順位や活動状況は不明 (2) 保健室利用状況と利用内容 (3) 清掃状態の点検、新型コロナ感染症対策 (4) 実施状況・参加状態の確認		
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
	・行事・集会等は放送やオンライン等で開催 新体力テストは授業内実施。耐寒競歩は、今年度も中止だが、授業において長距離走を実施。 ・保健室の利用状況、生徒の健康状態の把握 ・環境美化の推進 ・命を守る訓練、シェイクアウト訓練 ・防災に関する意識づけ	①行事・集会時、素早い行動が出来たか。新体力テストの結果は。長距離走ができたか。 ②利用状況と内容はどうか。 ③清掃状態はどうか。 ④命を守る訓練等の状況。 ⑤自衛消防組織は機能的か。	A (B) C D (A) B C D (A) B C D A (B) C D A (B) C D	
12	成果 課題 ○集団行動は、命を守る訓練（集合型）や、体育的行事（球技大会、スポーツフェスティバル）において、指導できた。新体力テストでは、今年度も良い成績であったが、新型コロナの関係で、体育の授業内での実施となった。 ・○保健室の利用は、増加傾向であったが、体調不良や心の問題を抱える生徒に適切に対処できた。 ▲救命救急法講習会は、実施できず。 ▲職員対象の自衛消防組織を学ぶ講習会も実施することができなかった。 ○毎朝の健康チェック、消毒など様々な新型コロナ感染症対策を行った。 ▲救命救急法講習会、自衛消防組織研修が中止となったため、防災に対する意識づけが不足、危機管理の面で、十分ではない。	総合評価 A (B) C D		
13	来年度に向けての改善方策案 ・新型コロナ対策が中心となった。来年度は、5類移行のため、対策も緩和される。新型コロナへの新しい対応やインフルエンザ等感染症への予防を検討する。 ・学校防災関係は、全生徒の防災への意識向上も含め、HRでの活動を検討していきたい。また、災害時の学校備蓄品のアレルギー対応を進める。 ・今年度LHR時に行った、1年次生への「性教育講話」を来年度も実施する。			

3	評価する領域・分野	◇ 図書 部			
4	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「図書館の利用回数」について、「一度もない」という生徒が62%で、前年度と比べて9%増加している。 ・「朝の読書」に対して否定的な回答をした生徒は約11%であった。 			
5	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇読書を通して豊かな人間性を涵養するよう努めるとともに、学習や教養の情報センターとしての機能の充実に努力する。 ◇読書指導の推進→「朝の読書」「読書感想文コンクール」の実施。			
6	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・図書運営委員会（各教科、各系列、年次会との連携） ・図書委員会（図書館だより、各種行事） 			
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8	達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 「朝の読書」を通して生徒が本に触れる機会を増やす。 (2) 夏期休業中に「読書感想文」を課し、読書に親しませ、自分の考えを表現する機会を持たせる。		(1) アンケートや「朝の読書」時の生徒の様子を観察し把握する。 (2) 読書感想文の全員提出、校内読書感想文コンクールの実施。			
9	取組状況・実践内容等	10	評価視点	11	評 価
<ul style="list-style-type: none"> ・「朝の読書」は、学級文庫の冊数を増やし、皆が本を読める環境を整え、静かな環境で実施できた。 ・「読書感想文コンクール」に、全員が参加し、本を読み、自分の考えを表現することができた。 ・館内外のディスプレイを工夫し、図書館だより『A. L. L.』で紹介した本を見やすい場所に展示し、貸出増加に努めた。 		①静かで落ち着いた環境の中で読書に集中させることができたか。 ②本を読み、自分の考えを表現できたか。 ③一人でも多くの生徒に、読書への興味・関心を持たせることができたか。		(A) B C D (A) B C D A B (C) D	
12	成果 課題	○落ち着いた環境で、「朝の読書」を実施することができた。 ○読書指導の一環である「読み語りの会」は、三密をさけながら実施した。 ○「校内読書感想文コンクール」優秀賞の生徒の作品が県のコンクールで佳作を受賞した。 ▲来館者が昨年度より減少した。			総 合 評 価 A (B) C D
13	来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・図書館で何ができるのかを広報することで来館者を増やし、生徒の学習支援ができるように努める。 ・「朝の読書」がより充実し、生徒一人ひとりが読書習慣を身に付けられるように、全職員の協力をお願いしたい。 				

3	評価する領域・分野	◇ 渉外	
4	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に続きコロナ感染症の影響で学校行事の中止・延期等の対応がなされ、保護者の来校も自粛されたが、運営委員会は昨年より多く開催し、現状および今後の活動等について意見交換を行った。 ・学校の現状・予定・変更・結果などを逐次情報が欲しいと思われており、すぐメールを活用し迅速に連絡をした。 ・アンケートなどはformsで行い、スマホで実施できるようにした。 	
5	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇学校とPTAの連携を密にし、PTAとしてできる限りの支援をする。 ◇学校行事の取組を通して、各種委員会の活性化を図る。	
6	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者：PTA会員（本部役員・各種委員会との連携） ・卒業生：同窓会会員 	
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) PTA役員・進路指導委員会・同窓会役員による3年次生の就職希望者面接指導。 (2) 生活指導委員会と生徒交通安全委員の合同による登校時における挨拶指導・交通指導。 (3) 運営委員会の開催。		(1) 学校の様子を理解し、学校行事に参加することができたか。 (2) 学校を理解し、教員とともに生徒のための助言ができたか。 (3) 学校との連携のもと側面的援助ができたか。	
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・3年ぶりにPTA総会を実施。 ・PTフォーラムはオンライン同時開催で実施。 ・3年次生面接指導および夏・秋のPTA合同交通安全指導は実施。 ・スポーツフェスティバルの際に、全校生徒に飲料水等を配付。 ・運営委員会を4回実施。 		① コロナ対策も行い、総会およびPTフォーラムを実施する ② 学校行事での生徒へのできる支援をする。 ③ PTA役員との連絡を密にし学校の状況などを報告する。	A B C D A B C D A B C D
12	○ 3年ぶりにPTA総会を開催した。しかし、校舎建設工事中のため駐車場が十分に確保できなかったこともあり出席率は約17%ほどであった。 ○ 6月のPTフォーラムはオンライン同時開催で行った。初めてのオンライン開催であり、各学年百十数名の保護者が視聴していただけた。 ▲ 今後のPTA活動（事業内容）の見直しをすることになった。無くすのではなく内容を変更することを考え、運営委員会等を適宜行い検討する。	総合評価 A B C D	
13	来年度に向けての改善方策案 ○ 校舎建設工事は年内中はおかかり駐車場の確保も難しい。コロナ感染状況はわからないが、来年度のPTA総会およびPTフォーラムをオンラインで開催する。 ○ PTAバザー、炊き出しはやらず、キッチンカー等の方法を検討する。		

3	評価する領域・分野	◇1年次		
4	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・上級学校見学会や進路希望調査により、多くの生徒は進路に関する意識を向上させている。 ・「産業社会と人間」を通じて、望ましい職業観を育成している。 		
5	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇主体的な学習態度を育成するとともに、様々な体験や情報を通じ、自ら考え・判断し・行動できる力を育成し、自己のあり方を探求させる。 ◇自己を見つめ、自己の個性を発見し伸ばさせるとともに、お互いを尊重する思いやりの心、協力し合う態度を育む。 ◇社会や集団の一員としての所属意識を高め、自覚と責任を育み、規律の大切さを理解させ、自己実現を図る能力を育成する。		
6	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・年次会における情報共有（毎週の打合せ会及び定例の年次会） ・教務部、生徒指導部、進路指導部、系列、部活動との連携 ・年次の集会や運動会など行事へのクラス、年次単位での取り組み ・クラス独自のロングホームルーム企画の研究と実施 		
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	(1) 「産業社会と人間」における進路情報の収集や体験的な学習を通じて、職業観の育成と進路実現に向け努力させる。 (2) 学校行事や部活動に積極的に参加させる中で、一人一人の役割を自覚させるとともに、社会規範を遵守する態度を育成する。	(1) ノートやレポートなどの提出率や内容評価によって、取組の積極性や意欲を評価する。 (2) 球技大会、学校祭などの特別活動や部活動など、教科外活動に対して、担当者や部顧問から年次の特色を評価する。		
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
	<ul style="list-style-type: none"> ・年次会が中心となり、各部と連携しながら、生徒情報の交換、共有を行う。 ・「凡事徹底」を学年目標に掲げ、基本的な生活習慣を身につけるとともに、社会規範やモラル意識の定着を図る。 ・朝読書を通して、落ち着いて学習に向かう姿勢を育成し、自己啓発の場となるよう促す。 	①迅速かつ適切に対処し、共通理解を図ることができたか。 ②集団の一員として自覚を持って行動することができたか。 ③一日の始まりの有効な時間とすることができたか。	(A) B C D A (B) C D (A) B C D	
12	成果 ○「産業社会と人間」における様々な講話や講演、科目選択への取り組み、インターンシップ実習の参加やライフプランの作成等を通して、自己の将来について真剣に考えることができた。 ・○身だしなみ・環境美化・時間を守る意識等、年間を通じて一定程度の集団規律を維持することができた。 課題 ▲落ち着いて授業に取り組むことはできたが、自ら課題を設定して意欲的に取り組む姿勢を十分に醸成するには至らなかった。	総合評価 (A) B C D		
13	来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・各種取組の趣旨を確認し、生徒がじっくり考える場を設定する手法を模索する。 ・命と安全について最優先に考える姿勢をもつと共に、交通安全指導を徹底する。情報モラル等については年次集会など、あらゆる機会を通じて啓発活動を行っていく。 ・年次会、生徒指導部（教育相談）をはじめ、関係部署との連携をさらに充実して、生徒の動きに迅速に対応した指導をおこなう。特に、不登校や欠席・遅刻の多い生徒に対して、一人ひとりに寄り添う指導を必要とする。 			

3	評価する領域・分野	◇2年次		
4	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動をはじめ諸行事への取組が活発で、積極的である。 ・系列別毎の学習等を通じて、進路設計をサポートしている。 ・学習に対する意欲が乏しく、進路実現に不安を感じる。 		
	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇主体的な学習態度を確立するとともに、さまざまな体験を通して、自己の「あり方、生き方」を探求する態度を育成する。 ◇自己の個性を伸長させるとともに、中核学年としての自覚を持たせ、諸活動に主体的に取り組む力を育成する。 ◇帰属意識の定着とその一員としての自覚を持たせ、互いを尊重する思いやりの精神を養う。		
6	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・教務部、生徒指導部、進路指導部、系列との連携 ・年次会における情報共有 		
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	(1) 自らが選択した学習を通して、学習に対する真剣さと積極的な態度を育成する。 (2) 学校行事や特別活動等への積極的な参加と、2年次生としての役割を自覚させ、主体的に行動できる力を育成する。 (3) 社会、家庭、学校における集団生活の中で、規律の大切さを自覚させ、社会的規範を遵守する態度を育成する。	(1) 進路希望実現のための基礎的及び応用的な学力や技術を身に付けることができたか。 (2) ホームルーム活動や部活動、諸行事等に積極的、主体的に取り組むことができたか。 (3) 規律ある行動、他者への思いやり、人権を尊重する生活態度であったか。		
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
	<ul style="list-style-type: none"> ・年次会が中心となり、各部と連携しながら、生徒情報の交換、共有を行う。 ・規律のある行動を心がけさせ、社会規範やモラル意識の定着を図る。 ・自己の将来設計を見据えて、主体的な学習態度を確立させる。 	①迅速かつ適切に対処し、共通理解を図ることができたか。 ②集団の一員として自覚を持って行動することができたか。 ③計画的、継続的な学習習慣を身に付けることができたか。	A B C D A B C D A B C D	
12	成果・課題			総合評価
	○自ら選択した系列の学習を通して、自己の将来について真剣に考えることができ、外部模試や資格試験などにも積極的に取り組むことができた。 ○年次会での情報共有を密にし、問題解決に向けて関係部署との連携を図り、迅速かつ適正に対応することができた。 ○コロナ禍の中、日程の変更、行き先の変更はあったものの感染防止対策を徹底して、参加予定者全員が無事に修学旅行を実施することができた。 ▲家庭学習の定着を図っているが難航している。生徒の意識改革が必要である。			A B C D
13	来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・多様化により、さまざまな悩みを抱えた生徒が増えている。より専門的なサポートを行えるよう学校・保護者・カウンセラーの他、必要に応じて外部団体にも協力を求めながら行う。 ・感染症対策や交通事故・情報モラル違反等を減らすため、あらゆる機会を通じて啓発活動や考える機会を設け、生命の尊さや社会規範の持つ意味を理解させ、望ましい行動ができる人材を育成する。 ・各自の進路目標に合わせた適切かつ的確な助言を行うことができるサポート体制を、教科や系列と連携して行えるよう整備する。 		

3	評価する領域・分野	◇3年次	
4	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動をはじめ諸行事への取組が活発で、積極的である。 ・系列別毎の学習等を通じて、進路設計をサポートしている。 ・学習に対する意欲が乏しく、進路実現に不安を感じる。 	
5	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇様々な体験や学習を通して、自らの在り方や生き方を探求し、進路目標を実現する力と態度を育成する。 ◇個性の更なる伸長とともに、意義を持って諸活動に取り組む力を育成する。 ◇集団の一員としての自覚を持ち、学校行事等の企画や運営など積極的に参画し、他者と協力して目的を達成できる力を養う。	
6	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・教務部、生徒指導部、進路指導部、系列との連携 ・年次会における情報共有 	
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
	(1) 進路情報等適切に収集、分析、活用させるとともに、自らの考えを明確にさせる。 (2) ホームルーム等、集団生活の中で、自らの役割を認識させる。 (3) 他者とのコミュニケーションを通して、社会的弱者への配慮や人権遵守の精神の確立を図る。	(1) 進路目標の設定、その実現に向けての具体的な計画立案及び努力が見られるか。 (2) 部活動や学校諸行事、ホームルーム活動等に積極的且つ自主的に取り組んだか。 (3) 規律ある行動、他者への思いやり、人権を尊重する生活態度であったか。	
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
	<ul style="list-style-type: none"> ・教務部、進路指導部、系列等と連携を密にして進路及び学習に関する情報交換を密に行おうとした。 ・部活動や学校諸行事、ホームルーム活動等自主的に取り組めるよう計画した。 ・機会があるごとに生徒の意識を喚起し、年次会内での意思統一を図り、同一視点での指導を図った。 	① 同じ意識で連携を取りながら指導がなされたか。 ② 各行事、行動に意義を持たせ自主性を発揮させられたか。 ③ 生徒の意識は向上してきたか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
12	成果	総合評価	
	○3年次としての自覚を持たせ、進路実現に向けて前向きに取り組ませることができた。 ○平素の注意喚起が奏功したのか、事件・事故がたいへん少なかった。 ・ ▲進路指導が決まった後、生活に緩みが出てきた生徒が少なからずいた。 ・ ▲コロナ禍のため、部活動の大会や学校行事等が中止となり、目的を見いだせない状況が少なからずあった。	A (B) C D	
13	来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人が前向きに目標に向かって取り組めるよう、啓蒙活動や考える機会を設けるとともに、保護者・カウンセラーの他、外部団体にも協力を求めながら、サポート体制を整えていく。 ・年次会でHR活動や、クラス内の状況、進路状況や指導の経過など連絡を密にとり、情報共有を行い連携・扶助していく意識を各担任間で育成する。 ・本校の幅広い進路希望に適切に対応する必要がある。進路指導部・各系列と連携するだけでなく、担任一人一人が進路研究を進めるとともに、生涯学習の大切さを生徒に訴えていく。 	

Ⅱ 学校関係者評価

令和5年2月実施

【意見・要望・評価等】

- 授業評価について、生徒からの評価が高い。一方、生徒たちは家庭学習時間の確保が不十分だとしている。家庭学習習慣が定着するよう支援してほしい。生徒からの発信を中学生たちも知りたいと思っている。今後も大切にしてほしい。
- 進路指導について、系列と関連のない就職・進学が増えているのは気になる。
- 授業参観で生徒の様子が生き生きとしていた。教員がいろいろなスキルを用いて工夫しているのが高い授業評価になっている。部活動での活躍が新聞記事になっていることが誇りに思う。さらに活性化して行ってほしい。
- 授業評価で、多くの生徒が先生の授業への熱意を感じたと回答しているのは素晴らしい。
- 進路指導で卒業生にWebアンケートを行い、状況を把握しているのは良い。
- 心が不安定な生徒が増えているのはどの学校でも同じだと聞いている。
- 地域での自転車のマナーなども本校の生徒は良い。
- 授業反省で、部活動中心に頑張っている生徒が多い中、家庭学習にも取り組んでいる生徒が半数近くいることに驚いた。提出物など部顧問の先生に丁寧に声をかけていただいている。本校は進学だけの高校ではない。勉強は続けるが、部活動を頑張り、指定校推薦を使って進学するのも保護者としてはとてもありがたい。
- 部活動をやりたくて本校に入学した。保護者の間では、本校はやりたいことがある生徒はいいが、決まってない生徒には向いてないと言われている。
- 進路指導に関して3年生になった時に情報が乏しいと感じた。
- 本校の生徒は、礼儀正しく身だしなみもよい。この長所を伝統として価値づけ、大切にしているしてほしい。
- コロナ禍で行事が減っていく中、PTAの役員として何をしていくべきなのか、考えている。本校に入学してよかった。
- 本校の教員は熱心である。コロナ禍の今、何ができるのかを考え、生徒の心を見極め、教育して行ってほしい。

【質問】

- 質問1：携帯電話の利用規定を変更した理由は？
→ 生徒会からの要望をきっかけとして話し合いながら決定した。
- 質問2：心のケアが必要な生徒とは具体的には？
→ 人間関係が希薄になっているからかもしれないが、自分の状況や周囲の状況を冷静に考えられない生徒が増えたと感じる。
- 質問3：部活動は全入制ではないが、加入率は？
→ 今年度夏時点で85%程度である。5月は90%あったが、だんだん無所属者が増えている。
- 質問4：1年次生の教育課程が変更になったということだが、どう変わったのか？
→ 必修科目の地歴2科目を選択することになっていたが、1科目を共通科目として位置付けた。

【まとめ】

全委員より率直な質問や意見が出され、本校の取組について、理解が得られた。次年度に向けて、本校の良さを大切にしながら改善に努めるとともに、今後も地域の方や保護者に本校の良さを発信し、入学生の確保に努めたい。